
黄金の鶏

タケノコ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

黄金の鶏

【Nコード】

N0634I

【作者名】

タケノコ

【あらすじ】

品種改造と科学の力によって黄金の鶏を作り出したE博士。博士は、その鶏が産む黄金の卵で売上を伸ばしていたのだが……。

「一、二、三、四……フム、今日は八つか」

E博士は自宅の庭にある鶏小屋で卵を数えていた。ただし、そこらへんにある普通の卵ではなく、真正正銘の純金で出来た黄金の卵だ。一つで数万はくだらない、E博士の研究の成果だった。

「オイ！それは鶏か？金色をしているようだが」

E博士が小屋内から金網ごしに外を見やると、そこには黒と白のシマシマ服を着た恐ろしい人相の大男が立っていた。

「どうなんだ？答えるー！」

身震いしながらも博士は答える。

「え、えー、そうです。し、しかし食用ではありません！」

囚人と思しき人物が口の端からよだれを垂らしていることに気が付き慌てて付け足す。

「金色とは縁起が良い。ごちゃごちゃぬかさずにその鶏を持ってこい！焼く道具はあるか？」

人相の悪い男の手には拳銃が握られていた。

結局、止めることができずに調理用のオーブンで丸焼きにされてしまった元金色の鶏が食卓を飾る。

「焼くとまるで北京ダックだな」

喜びに喉を鳴らす恐持ての男。

「その鳥は黄金の卵を産む鶏で、食べるとどうなるか……」

「また、その話か！俺を脱獄囚だと思って馬鹿にしているんだな！次その話を出したら……」

そういうと脱獄囚は黒光りする凶器の照準をE博士に合わせた。「す、すいません。もうしませんで、その恐ろしいものをしまってください」

「わかればそれで良い」 元囚人は満足げな顔で鶏にかじりついた。

「……う、……うまい！なかなかイケるじゃないか」　そういうと
テーブルの上にあったビールを口から流し込んだ。

「ムッ！シー！！」

苦しそうな声をあげたシマシマ服の男は腹を抱えて立ち上がった。

「オイ！便所はどこだ！？」

トイレの位置を伝えると黒白服の男は一目散に便室に駆け込んだ。

「ぎゃああー！！！！！！」

トイレからこだまする叫び声に、博士は恐る恐る便所の側に寄った。そして、戸を開ける。そこには、光沢があり黄金に輝く脱獄囚が俯せに倒れていた。

「だ、大丈夫ですか！？やはり無茶だったんだ……」　便器の中には

は赤い水、その下には光り輝く金の延べ棒が……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0634i/>

黄金の鶏

2010年10月10日23時57分発行